

七峡だより

令和4年 1月 11日
荒川区立第七峡田小学校
校長 高田 大

虎は千里行って千里帰る

校長 高田 大

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中はコロナ禍における本校の教育活動の実施や取組の工夫に多大なご協力とご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

今年の干支は「寅」。日本では動物の「虎」が充てられ縁起物でも親しまれています。虎にまつわる故事成語等を紐解くとやはりその強さをイメージしたものが多く、『虎に翼』のように直接的に強さを表したもの、『虎の威を借る』のように強さの悪用を戒めるものなどがあります。また『虎の尾を踏む』のように強さから転じて危険を表すものもあり、時には怖いイメージがある動物でもあります。



その一方で虎は大変子煩悩な動物とも言われており、大切なものを『虎の子』と呼ぶのは、虎が我が子をかわいがり宝物のように世話をする様子から来ています。表題の『虎は千里行って千里帰る』も、勢いが盛んで行動力に優れていることの喩えだけでなく、我が子のためにどれだけ遠くへでも駆けつけ必ず帰ってくること、そのために力を尽くすことを厭わない愛情深さをも表しているのだそうです。

そして、十二支における「寅」は「決断力」や「才覚」の象徴だとも言われています。才覚と言えばこの年始に、私はテレビの前でとある才覚の発揮に釘付けになりました。それは全国高校サッカー選手権大会で山口県代表の高川学園高等学校が見せた戦術「トルメンタ」の鮮やかさです。新奇性に溢れアイデア豊かな戦術であること、全国の舞台で結果を出せるまでに磨き上げていること、そして何よりもプロの模倣や監督の指示ではなく選手自らが考案した戦術であることに驚嘆しました。見ている観客も選手自身も心躍るようなチーム作りは、選手がプレーを自分たちで考え、自主的に選択することから生まれているのだとインタビュー記事から知り、教育者としても大いに学びとなったところです。

学校は、千里を走る虎のように子どもたちのために力を尽くし、また子どもたちの持つ虎のような才覚を信じて経験を積み、力を引き出し伸長する場でありたいと願っています。令和4年も七峡小では大切な『虎の子』たちをしっかりと育てまいります。本年もどうぞよろしく願いいたします。

来校時の受付についてお願い

今年度、行事や授業参観等でご来校の際には、保護者の皆様に名札の着用と健康チェックシートの提出をお願いしています。この方法は、受付で名簿からお子様の名前を探したり児童数分の記名や記入をしたりする手続きを省略して、滞留を生じさせずスムーズに参観場所に向かっているただき、受付が過密になるのを避けることを目的の一つとしています。

受付での手続きを最小限とするために、**①名札**、**②健康チェックシート**、そして**③上履きと下足入れ**の3点について、事前にご用意の上ご来校いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

席書会について

国語担当

本校では今年も、席書会・校内書き初め展を実施します。今年度も荒川区書道連盟から講師の先生をお招きして毛筆指導をしたり、放課後学習で「ななはけ書写教室」を開催したりして、書くことに親しむ機会をたくさん設けました。どの子も手本をよく見て真剣に一字一字向き合っている姿が印象的でした。

一人一人が字形や全体のバランスに気を配りながら書き上げた作品は、15日（土）から21日（金）まで校内に展示します。



「なわとびタイム」について

体育主任

20日（木）から、一人一人が目標を決めて、縄跳びの練習をする「なわとびタイム」を行います。寒さに負けず、自分の目標達成に向けてたくさん練習をしていけるよう子どもたちを励ましていきます。

ご家庭では、引き続き体調管理をお願い致します。また縄跳びの長さの調整を行っていただけると幸いです。



1月の生活指導目標「礼儀正しくしよう」

生活指導主任

元気なあいさつは、相手の心をさわやかな気持ちにさせます。「あいさつ」は、相手に気持ちを伝える大切な礼儀です。七峡小では、「あいさつ」を1月の生活指導の重点として、指導にあたっていきます。七峡小の児童には、寒さに負けず元気で気持ちのよいあいさつができる子になってほしいです。

